

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォイストレーニングⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォイストレーニングⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	自身のソロプロジェクトにて作詞作曲をするなどシンガーソングライターとして積極的に活動中。 ヴォイストレーナーとして後進の育成も行っている。					
授業概要						
楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。 シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。						
到達目標						
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	身体づくりの腹式発声					
【前期】 5～8回目	強さと基本発声(歌唱への活かし方・脱力)					
【前期】 9～12回目	前期試験					
【前期】 13～17回目	発声に関する資料をみながら前期の復習					
【後期】 18～21回目	高音域(歌唱への活かし方・脱力)					
【後期】 22～26回目	ロングトーン					
【後期】 27～31回目	声のトーン					
【後期】 32～34回目	後期試験、1年の振り返り					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカリスト基礎知識		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	ヴォーカリスト基礎知識	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	様々なステージ、メディア出演を経験、現在の指導対象はミュージシャンのみならず、俳優、映像、舞台など幅広い指導経験を持つ。					
授業概要						
ヴォーカリストとして活動していく上で必要な基礎知識を学びながら、音楽・エンターテインメントの見識を元にした様々な体験を重ねる。						
到達目標						
ヴォーカリストに必要な基礎的知識を学ぶことによって、活動していく上でのスキルを身に着ける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	■音域・フィジカルチェック ■音楽の三大要素メロディ・ハーモニー・リズムについて知る ■音階・音程・コード・拍子等について知る ■コード理論を知る(トライアードまで) ■著作権について知る ■音楽専門用語・業界専門用語について知るジャンル曲調について知る ■フィジカルトレーニング					
【前期】 5～8回目	■ステージング・ライブパフォーマンスについて知る ■発表会 ■発表会を振り返り、ヴォーカルパフォーマンスにおける長所・短所を自覚する ■マイクについての知識、ダイナミックとコンデンサー、各メーカーの特徴などヴォーカルが知っておくべきマイク・機材の特性を知る ■前期試験対策授業 ■フィジカルトレーニング					
【前期】 9～12回目	前期試験					
【前期】 13～17回目	■前期試験答案返却・復習 ■アカペラコーラス講習 ■フィジカルトレーニング					
【後期】 18～21回目	■ライブ業界(ライブハウスやホールでのイベント・ライブ運営、自身で外ライブを行うまでに必要な過程など)を知る ■オーディション・プロジェクトへのエントリー用プロフィール作成を通じてセルフプロデュースを知る ■MCや作詞を通じて 言葉での表現技術を知る■フィジカルトレーニング					
【後期】 22～26回目	■コード理論を知る(7thコード・テンションコード・分数コードなど) ■有名なカバー曲からアレンジ能力を知る ■実践型コード理論・音楽理論を通じて 作曲・編曲に活かせるテクニックを知る ■ジャンル毎のグルーヴ・ビートからリズムの構造を知る ■アカペラコーラス講習 ■フィジカルトレーニング					
【後期】 27～31回目	後期試験					
【後期】 32～34回目	■良質な音楽が扱われている映画やライブ・コンサート等の動画鑑賞 ■アカペラコーラス講習 ■フィジカルトレーニング					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ヴォーカルテクニックⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	ヴォーカルテクニックⅠ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	自身のバンドでメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動中。					
授業概要						
先ず既存のフレーズの発声面、技術面の分析及び解説を行い、それぞれの技術の目的と使った結果の効果を理解させる。次に、講師が作成したフレーズにどのように技術を織り込むかの実践を行い、それらを使うセンスも身に付けさせる。						
到達目標						
歌詞の内容やオケ(楽器)の演奏に対して、“どの声でどの技術をどのポイントで使うのか”を身に付け、聴衆に感動を与える歌が歌えるようになることを目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	授業の目的を説明し、アップテンポ曲を用いてアタックやアクセントの意味を理解。歌詞の世界観を伝える発声・表現と、リズムやグルーヴの作り方を学ぶ。					
【前期】 5～8回目	リリースアウトに使うヴィブラート、フレーズ頭で使うエッジの目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。					
【前期】 9～12回目	フレーズにグルーヴを与えるバンドの内容を理解させ、様々なメソッドを知識として学ぶ。					
【前期】 13～17回目	フレーズ内に息の音をわざと入れる方法と目的を学び、それを身に付けるメソッドを知識として学ぶ。 ウイスパーとファルセットの出し方の基本的な形を学び、様々なメソッドを学ぶ。更に、ナチュラルヴォイスとの切り替えに対して必要な身体の使い方を学び、実際の歌唱に繋げていく。					
【後期】 18～21回目	エキセントリック歌唱に効果的なヒーカップ、リリースアウトに入れることで効果を生むフォールの内容と目的を学び、それを習得するメソッドを学習する。					
【後期】 22～26回目	総復習					
【後期】 27～31回目	講師が作成したアップテンポの1フレーズに対して、今まで学習してきたことを活かして歌詞、メロディー、オケ(楽器演奏)に対して、その世界観を伝える効果的なフレーズの作り方を考察する。					
【後期】 32～35回目	後期試験					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	楽器実技Ⅰ		授業形態 / 必・選	実習	必修	
	学則上表記	楽器実技Ⅰ		年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース				教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	サポートギタリストとして活動。 その他ギタートレーナー、レコーディング、楽曲制作、編曲など活動は多岐にわたる。					
授業概要						
ギターを弾く上で基礎的な部分の学習。「ギタリストに必要な理論」をメインに「指板上の音の覚え方」や「音感やリズム感の向上」、「チューニングの重要性」や「譜面の読み方や学習方法」音楽、ギター未経験者からのスタートでも段階を踏んで上達していけるプログラム。						
到達目標						
ギターの基礎的な演奏技術や練習方法の習得、プロの現場で使える音楽業界の知識、譜面の読み方や音楽理論の重要性、音楽専門学校ギター専攻として必要な音楽知識の学習						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	役に立つ運指練習、指板上の音の理解(ルートの位置など実際に弾けるようにする)チューニング、調号を理解する。全ての音を度数で理解する。					
【前期】 5～8回目	基本コード全般(オープンコード、パワーコード、バレーコード、3,4和音、ディミニッシュ、ダイアトニックコード)					
【前期】 9～12回目	リズム譜(現場譜面を使用)の読み方それを弾く練習。 ペンタトニックスケール全般(5ポジション、スライドポジション、アドリブでフレーズが弾けるまでにフレーズの引き出しを増やす練習をする)					
【前期】 13～17回目	チョーキングやスライド、ハンマリングプリングなどの表現力を正確に身につける。					
【後期】 18～21回目	基本のスケールを理解(課題で曲の抜粋を使い、曲中で理解して弾けるようにする) リフやコードオブリを構築出来るようにする。					
【後期】 22～26回目	コード進行の中で、コードごとに雰囲気をつくる音を(フレーズやコード)を演奏しながら身につける(歌ものに出てくる程度のモード&スケール、テンションも取り組む)					
【後期】 27～31回目	耳コピをして譜面を作ったり、マスター譜を見て初見演奏の練習					
【後期】 32～35回目	玉譜の読み方を読み取り、シンプルなメロディやリズムを弾く演習をしてみる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	ギターヴォーカル総合Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	ギターヴォーカル総合Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	バンド歴25年講師歴10年。自身がギターヴォーカルを務めるバンドにてメジャーデビュー経験あり。有名アニメのテーマソングも手がける。 現在はバンド活動と並行し楽曲提供やレッスン、プロデュースなど多岐に渡る活動を展開中。				
授業概要					
現役バンドマンによるバンドマンのための、リアルで実践的な活動法をレクチャー。ボイストレーニング、ギター、楽曲制作などバンド活動に必要な スキルなどを身につける。					
到達目標					
オリジナル曲を制作しライブで演奏することを目指す。実践を経て将来へ役立てて行けるスキルや思考を育てることが目標です。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	ボイストレーニング、ギター、楽曲制作の方法などの基礎。				
【前期】 5～8回目	自身で決めた楽曲を使用し、表拍、裏拍を意識したリズムトレーニング。				
【前期】 9～12回目	ギターヴォーカルとして必要なコードチェンジの習得およびギターアンプのセッティング解説。				
【前期】 13～17回目	ギターを弾きながらの歌唱実技。リズムの取り方やアクセント、ギターのストロークレッスン。				
【後期】 18～21回目	オケに合わせたギターヴォーカル実演やDTMでの楽曲制作方法の解説。				
【後期】 22～26回目	ライブハウスでの活動の仕方やバンド活動のノウハウを学ぶ。				
【後期】 27～31回目	オリジナル楽曲の制作。				
【後期】 32～35回目	授業で学んだ各スキルのクオリティの向上。基礎や実践の総まとめ。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	歌詞		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	歌詞	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	これまでにさまざまな楽曲の作詞を担当。 その他、数多くの作編曲、レコーディング、書籍執筆など幅広く活躍中。					
授業概要						
メロディと歌詞を融合させた時の歌詞の大切さを身に付ける。作詞のストーリー、アイデアの出し方など能力を向上させる。 決められた文字数(音符数)に対して自然な言葉を入れられる能力を向上させる。						
到達目標						
シンガーソングライターとしてだけでなく、作曲家の決まったメロディに対して作詞家として内容の濃い要約された言葉でアプローチできるスキルを身に付ける。						
授業計画・内容						
【前期】 1～4回目	言葉が本来持つ力を引き出す ・メロディの高低差と喋り言葉のイントネーションを合わせることでキャッチーな歌詞になる事を理解する ・そうすることで喋りかけられているかのように言葉が耳から入って心に響く事を理解する					
【前期】 5～8回目	一度しかないチャンスをどう掴むか ・ライブでの演奏は1度きり、歌詞も一度しか聞いてもらえない事をしっかり認識する ・喋り言葉にない母音を歌詞に入れる事でリスナーに伝わりづらくなることを理解し作詞する					
【前期】 9～12回目	発注側になる事で普段思い付かない内容や言葉を出す ・レコード会社役(内容の依頼)、作詞家役に別れ発注と受注を学びシンガーソングライターとしてのスキルを上げる ・ワードを混ぜ合わせる事により普段思いもしないような言葉が生まれ、思わぬ発見ができるということを理解し個々の引き出しを増やす					
【前期】 13～17回目	「共鳴の自由曲の中での実践、修正、底上げ」曲の世界観を伝えるのに必要な、伸びやかな声やパワフルな声などを正しく作れているかを主なものとする。更に、フレーズ内でのその大小、強弱をコントロールする方法も学ぶ。 作詞は感覚ではなく、テクニックを身に付けて書き進める ・無駄の無い情景描写の書き方を学ぶことでAメロから引き込まれる歌詞を書けるようにする ・歌詞よりメロディが先にあるという条件を設け、音符数が限られている中で作詞する難しさと楽しさを学ぶ					
【後期】 18～21回目	近い未来を見据えて当て込み譜に触れる ・実際のプロの現場で使われた当て込み譜を使い、2年～卒業後の仕事を視野に入れ作詞することで引き出しを増やしていく ・当て込み譜に触れ、実際の玉譜に書き込む事で言葉がはまりづらいことを理解し、興味を深める。					
【後期】 22～26回目	実戦ですぐに使える作詞テクニック① ・5文字を6文字に増やす方法やテクニックを学び理解し、当て込み譜に歌詞をつけ書くことの楽しさを改めて知る ・逆に5文字を4文字に減らし同じ意味の言葉を探すことでより沢山の言葉を歌詞に入れ込むことができる技術を取得する					
【後期】 27～31回目	実戦ですぐに使える作詞テクニック② ・1音符に2音の歌詞を入れることができる方法やテクニックを学び理解することで歌詞の幅が広がり自由度が増すことを認識する ・英語のLoveなど1音で発音出来てしまう言葉が日本語にも沢山あることを知ることで更に幅が広がる事を確認する ・当て込み譜一曲分(フルサイズ)の歌詞を書くことを目標とし、書き進める					
【後期】 32～35回目	一人前の作詞家になるために ・当て込み譜一曲分(フルサイズ)の歌詞を書き、文字数やイントネーションなども含めきちんと書けるようになっているかを確認する ・実際に発売された楽曲と照らし合わせ自分の弱点と美点を理解し更にスキルを上げる					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	音楽理論Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	音楽理論Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギター演奏を中心に多数のレコーディングやアーティストサポート、アーティストへの楽曲提供、 劇伴、作編曲、楽曲プログラミング、教則本の執筆やトレーナーなど活動は、多岐に渡る。					
授業概要						
音楽に関する基礎的な音楽理論(ベーシックセオリー)を学び音楽に対する基礎的な知識を身に付け、 楽曲制作や演奏する楽曲の理解や実演奏へのフィードバックさせる為の授業内容になってます。						
到達目標						
アーティスト、演奏家にとって大事な共通言語とされる 基礎的な音楽理論の理解を深め自己の演奏に反映させ修得出来る事を目指す。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	基礎知識(1) ・音楽記号・拍子記号・音名・音符、休符・音の高さ ・調号、Keyに付いて、＃系とb系(1)・Tone Interval(1)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減)					
【前期】 6～10回目	基礎知識(2) ・調号、Keyに付いて、＃系とb系(2)・Tone Interval(2)1度、3度、5度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(1)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ・サークルオブフィフス(五度圏)・コードネームの表記方法(1)					
【前期】 11～14回目	基礎知識(3) ・調号、Keyに付いて、＃系b系(3)・Tone Interval(3)1度、2度、3度、4度、5度、6度、7度音程(完全、長、短、減) ・Degree(度数)表記(2)Ⅰ-Ⅱ-Ⅲ-Ⅳ-Ⅴ-Ⅵ-Ⅶ・Major Scale上に出来る三声、四声と音・コードネームの表記方法(2)					
【前期】 15～17回目	Diminished(減5、減7)音程、Augment(増5)音程から出来る和声とは、/ Chord FunctionからDominant Motion / Secondary Dominant ・Diminished Chord、Augment Triad Chord・ダブルフラット、ダブルシャープ ・Chord Function(1)・Dominant Motion(1)・導音、トライトーンとは、何か・Secondary Dominant(1)二次的なDominantとは、					
【後期】 18～23回目	ケーデンスに付いて、 ・ケーデンスのパターン Tonic Sub Dominat Dominantの進行パターン ・Dominant Motion(2)・Secondary Dominant(2)Secondary Dominantを使ってみる					
【後期】 24～27回目	転調のパターン / コードプログレッション ・平行調、同主調、近親調、遠隔調・各調へのコードプログレッションなど ・Dominant Motion(3)・Secondary Dominant(3)					
【後期】 28～33回目	[Logicの使い方応用 3] ミックスでよく使われるイコライザやコンプレッサーの基礎知識や使い方を学習し、 自作曲のクオリティをあげるような学習。					
【後期】 34～35回目	Tonic minor Scaleとは(2) ・Natural minor、Harmonic minor、Melodic minor Scale上に構築されるダイアトニックコードとDegree(度数) ・Natural、Harmonic、Melodic上に構築されるダイアトニックコードダイアトニックコードとDegree(度数) / コードプログレッション					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	DAW I		授業形態 / 必・選	講義	必修	
	学則上表記	DAW I	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	35回(70単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース・ベースコース・ドラムコース・シンガーソングライターコース ・ギターヴォーカルコース・ヴォーカルコース ・ダンスヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	ギタリストとして様々なアーティストのサポートでライブやレコーディングに参加。また楽曲の作編曲。MIX、MASTERINGまで自身で行う。					
授業概要						
音楽制作ソフト(DAW)でのトラック制作の方法の習得および技術の向上、他コースとのコミュニケーションや各楽器の違いや知るべき知識の習得。						
到達目標						
PCの操作法を学び、現代音楽の制作が出来るように(自分で創るオリジナリティを曲や音で活かせるようになる)知識、実践方法を学ぶ。						
授業計画・内容						
【前期】 1～5回目	PCの操作方法の指導、音楽制作ソフト(DAW)の操作方法の指導 ・PC、DAWの基礎知識(起動/USBorGoogleDriveへの保存) ・オーディオインターフェースの役割と使用、接続方法					
【前期】 6～10回目	各楽器の理解・プログラミング法(打ち込み)の指導 ・各作業用ツールの説明 ・4分音符(8分・16分・3連符・6連符)のクオンタイズの説明と理解					
【前期】 11～15回目	ドラム、ベース、キーボード、シンセサイザー等各楽器の仕組みの理解 ・各楽器を理解し、4小節(16小節+α)の課題曲の作成					
【前期】 16～17回目	「前期試験対策」 ・PC操作、各楽器の理解、プログラミング(MIDI打ち込み)、課題曲の作成の総復習					
【後期】 18～27回目	各楽器にフォーカスを合わせた課題曲の作成 ・1コーラスを目標に各楽器がメインになったジャンルの課題曲を複数作成 ・ボーカル、ギター、ベースなどの生データのレコーディングの仕組み、実践 ・エフェクト処理(アンプシミュレーター、パンニング、コンプレッサー、エコー、ディレイ) ・マイクの種類やファンタム電源等、レコーディング機材の知識を学ぶ					
【後期】 28～32回目	ツーマックスのバウンス作業 ・エフェクト処理を使い、ミックスに必要な知識を学ぶ ・エフェクト(プラグイン)を使用しマスタリングの実践(AI含む)					
【後期】 33～35回目	「後期試験対策」 ・生データのレコーディング、ミックス・マスタリングを使用した課題曲の作成の総復習					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アンサンブルⅠ		授業形態 / 必・選	実習	必修
	学則上表記	アンサンブルⅠ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	70回(140単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	ギターコース、ベースコース、ドラムコース、ヴォーカルコース シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	ソロプロジェクトとして作曲・レコーディング・マスタリングなどを自身で手がける。ライブ活動を並行しつつ動画や業界の知識を配信等の活動も行っている。				
授業概要					
コミュニケーションを第一に既成曲を題材に、互いに周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～30回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
31～32回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【前期】 33～34回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
【後期】 35～66回目	アンサンブルとは何か 課題曲①～④ アンサンブルフェスティバルへ向けて				
【後期】 67～68回目	アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。				
【後期】 69～70回目	半期のまとめ ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅰ		授業形態 / 必・選	演習	必修	
	学則上表記	アーティスト実地演習Ⅰ	年次	1年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置コース	ヴォーカルコース・ダンスヴォーカルコース・シンガーソングライターコース ギターヴォーカルコース・サウンドクリエイターコース・ギターコース ベースコース・ドラムコース			教員の 実務経験の有無	該当	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。					
授業概要						
卒業後の進路活動について学ぶ。 それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。						
到達目標						
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。						
授業計画・内容						
【前期】 1～6回目	アーティスト特別セミナー					
【前期】 7～14回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【前期】 15～20回目	各コース発表会					
【後期】 21～25回目	音楽業界スタッフによる講義。					
【後期】 26～30回目	各コース成果物提出					
【後期】 31～35回目	各コース発表会					
【後期】 36～40回目	コース別ファイナルイベント					
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
備考						

専門学校ESPエンタテインメント東京 音楽アーティスト科

授業科目名	分野別講座Ⅰ		授業形態 / 必・選	講義	必修
	学則上表記	分野別講座Ⅰ	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	31回(62単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置コース	音楽アーティスト科全コース			教員の 実務経験の有無	該当
担当講師 実務経歴	実務経験5年以上の各科目担当講師。現場での豊富な経験と技術への深い知見をもとに次世代の育成に取り組む。				
授業概要					
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。					
到達目標					
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～13回目	音楽業界基礎知識				
【後期】 14～16回目	音、電気、マイクスピーカーについて				
【後期】 17～29回目	音楽業界基礎知識				
【後期】 30～31回目	所得税と源泉徴収・確定申告				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
備考					